

## SSくんの全道優勝物語

子どものころ、全道大会に4回行きました。貧乏な家庭では、旅行代わりでした。

大人になって結婚して、子どもが産まれ、小3になつたのでそろばんを教えました。2年後旭川の全道大会に連れて行きました。そこは昔と違い、とんでもなくレベルの高い変な世界でした。当然旅行みたいなもんです。

それから2年後、釧路で行われた全道大会で「4年生以下の部」が新設され、3年生の男子2名を投入しました。すると種目別競技で3枚の賞状を取ってくれたのです。「へー全道大会って賞状取れるんだー」と思ふと、翌年からみんな入賞するのです。少し前まで「全道大会は旅行、賞状なんていらないさ」とそれが取れるようになったら、どんどん欲が出る。トロフィーが欲しい…でもこれは難しい。自分の息子を使って6年ほど挑戦したけどダメでした。

仕方ない、よその子やろう。SSくんのお父さんは職場の後輩です。「あーS、息子何才になつたっけ」「年長です」「ちょうどいいな、そろばんやらせてみないか」…

ほどなくして、SSくんはお父さんとそろばん教室に来ました。よく笑う男の子です。よく笑うSSくん、練習を始めると、驚くほどの吸収力だったのです。当たりはずの壁らしい壁もなく、どんどん上達していきます。

ひとおりの授業が終わると、大会の種目別競技である「読上暗算」「読上算」の特訓をします。ある程度以上の選手を残して行うのですが、SSくんは年上の子に混じって、この練習にも参加します。もちろんそれができるレベルではありません。でも嫌がらずに練習を続けるのです。やがて16桁の読上算ができるようになります。読上算は「願いまし

てはへ」と始めるやつで、全道優勝レベルは16桁の数字をランダムに10回早口で読上げ、それを聞き取り計算するものです。当時の4年生以下の優勝者は35秒くらい。

SSくんは4年生になっていました。全道大会は苦小牧で、満を持しての初出場です。総合競技(アリントの問題を解く)、読上暗算が終わつたところで「昼食です。読上算は、優勝の可能性が十分にあることを言い聞かせてあります。昼食も食べ過ぎないようにして、集中力を高めます。

競技が始まりました。競技は超早い問題から読上げられ、上のクラスの優勝者が次々に決まります。読上げるスピードは次第に遅くなつてきました。まだ4年生以下は優勝者が決まっていません。SSくんは答えを書きました。ほかにも数名が答えを書き、起立しています。答えを読上げ、不正解は席に座ります。SSくんは立ったままでです。そうです、正解したのです!ところがほかにも2名が正解していました。やべ~!決勝だ。この3名で優勝を争うのです。全道一が目の前まで来たのに、ニニからが本当の勝負です。見てる二つの胸がドキドキしています。次の問題は、3名とも不正解、次は正解と続く決勝。やがて1名が正解できず、SSくんと高貴な家柄に見える女子との一騎打ちになりました。そして、最初の正解から7問目、SSくん一人だけが立ったまででした。ついに優勝が決まったのです!自然と涙があふれます。

子どもの活躍にこんなに感動したことはありません。弱小そろばん教室から全道一が出るとは夢にも思っていました。本当に感動をありがとうございます。

翌年、小樽での全道大会。5、6年生の部に5年生で出場したSSくん。貫禄の2連覇です。嬉しいで駄目みたい気持ちをぐっとこらえ、落ち着いた大人の態度にみせかけます。

全道優勝はこの2回で終わつてしましましたが、昼食の食べる量が少なくて心配したお母さんも、勝負どきに必ずバナナを食わせ続けたお父さんも、生涯、光輝く経験になったものと思います。もちろん関わることができた私たちには、自慢のよその子ですよ!

成長し、あまり笑わなくなったSSくんは、この春高校に進学しました。進学先はSS(Sapporo South)高校です。すんげえな!

## 先生の読み手になるかも物語

読上算はとても早口で数字を読上げます。限界を超えて早く読もうとすると、音が丸くなり聞き取れなくなります。本人はきちんと読んでいろいろでも、聞き取れなくなります。

SSくんは4年生で全道優勝してからもどんどん進化し、中学に入ったころには、私が読む30秒程度は完勝でした。27秒くらいまでなら結構できます。ところが、大会の読み手と合わなければ30秒もできません。小6、中学生とレベルが上がるので、早い秒数になるので、ワンミスが命取りになります。一瞬でも聞き取れないと正解できません。特に最後の2年間は、読み手との問題です。聞き取れないSSくんが、かわいそうだと思ひながらも、心臓と頭にモガない自分で、あの場で読むことはできないだろうと思っていました。

昨年7月の道央珠算選手権大会は、岩見沢が当番で開催されました。「読み手がいないので、岩見沢地区として読み手をやってくれ!」地区長からの命令です。「いやだよ。小心者であがり症だから読めないよ」「いいからやってくれ」…心をかいても1回なら仕方ねえ。いやだけどやるしかないのか。

読上算は、3名の読み手が交代しながら進めます。無名の新人読み手は、当然3番手で回ってき

ました。か減算です。胸がドキドキしたまま頑張ったら24秒で読めました。きちんと聞こえたようで1名が正解しました。競技が終わり、過去最高のスピードだったと褒められ、おだてられました。

次は1月12日の北海道選手権大会で読んでくれって頼まれました。北海道選手権の読み手も3名ですが、今度は1番手のか減算でした。第1問は全道一を決める重要な問題です。人生最高の集中力をもって読み切ったタイムは22秒。また褒められ、おだてられました。

次は全日本選手権だつて。なんだよ全日本って?ユーチューバーで調べましたよ!でもこの大会の読み手は、録音したデータを京都本部に送り、審査のうえ読み手が決まるそう。そんなの送つたって選ばれるわけないべや!で、送つたら「選ばれました!」ってライン。選手だけで700名もいるんですよ!その前で「願いましてはへ」とやれますか~?考えただけでドキガムネムネして眠れません。2日前になつたら親へ死んだっていうか(ばれるぞ)当日腹が痛いってトイレにこもるか(うんニ先生っていわれるぞ)どうすればいいか悩んでいろところに「今年の全日本、コロナで中止になりました」…なんだよ、どっからでもかかっていいよ…

60年前でも練習すれば上手になることがあるんですねえ。口だけですが。ええ口だけですよ。コップを持つ右手と…

令和3年8月の全日本選手権も読み手を頼まれました。でもまたコロナで中止です。俺って疫病神かよ!

令和4年8月の全日本選手権は審査になり、一応、応募したところ、またもや選ばれてしましました。コロナで中止にならか、あかつ心かいて帰つくるか。ちょっと頑張つてみます!